



マダニに注意!

マダニは野外に生息する大型のダニで、長時間(数日～10日間)吸血しますが、ほとんど痛みや痒みを感じません。家庭内に生息するダニとは種類が異なります。

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)について

ウイルスを保有しているマダニに咬まれることによって感染します。咬まれてから6日～2週間後に発熱、倦怠感、消化器症状(食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛)などが現れ、重症の場合は死に至ることもあります。

マダニから身を守る方法

- できるだけ草むらに入らない。
- 野山に行く時は長そで、長ズボンなどを着用し、できるだけ肌を露出しない。
- 草の上に直接座ったり、寝転んだりしない。敷物を利用する。
- 脱いだ上着やタオルは、不要意に地面や草の上に置かない。
- 虫よけスプレーを活用する。
- 帰宅後、すぐに入浴し、着替える。

マダニに咬まれたら

吸血中のマダニに気が付いた際、無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残る恐れがあるので、医療機関(皮膚科)で処置をしてもらってください。また、マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をしてください。

**咬まれた後に発熱等の症状が認められた場合は、
早めに受診しましょう。**

